

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 総合政策学部 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果 |
| 中項目 | 6.3 教育方法 |
| 小項目 | 6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 |
| 要素 | 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院) |
| 小項目 | 6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 |
| 要素 | シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性 |
| 小項目 | 6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 |
| 要素 | 厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性 |
| 小項目 | 6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 |
| 要素 | 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施 |

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況(達成度)評価 | | | | |
|--|--------------------------|-------------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 2011年度に「国際開発協力プログラム」を策定し、2012年度から実施する。 | →「国際開発協力プログラム」の策定・実施の有無。 | C | B | B | A | A |
| 2. 2012年度に「英語コース」のプログラムを策定し、2013年度から実施する。 | →「英語コース」プログラムの策定・実施の有無。 | C | C | D | D | D |
| 3. 春学期に学科単位で学部生対象のシンポジウムを一回実施し、秋学期は一般公開のシンポジウムを一回実施する。 | →シンポジウム実施の有無。 | A | B | B | A | B |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 目標1 | A | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「国際開発協力プログラム」の名称を「グローバルキャリアプログラム国際協力コース(略称「GCaP」)」と改め、2014年度からの実施に向けて、「国際キャリアプログラム委員会」が中心となって準備を進めている。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「グローバルキャリアプログラム国際協力コース(GCaP)」は2014年4月から予定通り実施している。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度以降のプログラムに関して、実施状況を注視しながら細部を調整していく。 | ☆ |
| | | その他 | ☆ |

| | | | |
|------------|----------|--|-------------------------------------|
| <p>目標2</p> | <p>D</p> | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部において、卒業に必要な単位をすべて英語で行われる授業で取得することができることを目的とした「英語コース」の実施は、予定する学生数の確保が見込めないこと、教員負担の問題やカリキュラム編成上の問題などを検討した結果、中止となった。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 現在のところ、「英語コース」の実施を再検討する予定はない。</p> <p>その他</p> | <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> |
| <p>目標3</p> | <p>B</p> | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各学科の教員が中心となり、シンポジウムの企画・実行に当たってきたが、2013年度は、すべての学科でシンポジウムを実施することはできなかった。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学科の研究内容や学びの特色を反映したシンポジウムを実施することにより、学生の学習意欲を高め、自らの研究課題の自覚を促すことができた。実行を担当する教員の組織づくりが今後の課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部長室委員会で改めて成果の確認を行い、今後の効果的な実施方法を検討する。</p> <p>その他</p> | <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> |
| <p>備考</p> | | | <p>☆</p> |